



ウガンダのムベンデ県にてレモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業

活動 2.4 環境保護に関する法律・規制の施行状況のモニタリング

日付と場所：

No	日付	場所
1	2018年6月8日	キテンガ・ナバカジ湿地帯
2	2018年9月7日	ルサリラ・キバリング湿地帯
3	2018年12月7日	イタ・ナビンゴラ湿地帯
4	2019年3月15日	バゲザシード中学校

概要：

地球環境基金(JFGE)と Global Bridge Network (GBN)からの支援を受け、SORAK は準郡の代表者と SORAK のメンバーによって構成された 8 名からなるチームを派遣し、自然環境に被害が出ている湿地や公共施設で四半期毎のモニタリングを実施した。具体的には、テンガ・ナバカジ湿地帯、サリラ・キバリング湿地帯、そしてキイタ・ナビンゴラ湿地帯を訪問した。また、キバリング準郡のバゲザシード中学校への訪問も実施した。

活動の目的：

本活動の目的は、自然環境の被害状況と環境保全がどの程度まで実施されているかを観察し監視する事である。湿地破壊を防ぐ努力が継続的に行われるよう SORAK はモニタリング結果を関係者（特に準群や県のリーダー）に報告する。

参加者：

場 所	男性	女性	合計
キテンガ・ナバカジ湿地帯	6名	2名	8名
ルサリラ・キバリング湿地帯	5名	3名	8名
キイタ・ナビンゴラ湿地帯	5名	3名	8名
バゲザシード中等学校	4名	4名	8名

関係者：

本活動は SORAK のチームが主導となり、関係者と一緒に様々な現場を訪問することである。下記メンバーが主導となりモニタリングを実施した。

1. ムハンマドケイユン、SORAK 代表
2. マーティンマファビ、SORAK スタッフ
3. 郡の自然環境の責任者
4. 今回参加した関係者：

- ① 郡の自然環境の責任者

- ② 郡の自然環境の副責任者
- ③ 準郡の指導者
- ④ 準郡のコミュニティ開発責任者
- ⑤ 準郡の自然資源担当官
- ⑥ 湿地近隣の村のリーダー

活動内容：

湿地へ訪問し、稲耕作、植樹、砂・粘土採掘、ごみの投棄、湿地の焼却などの人間の手による環境被害を視察・監視した。

1. 湿地帯の範囲を明確にして他の土地との境界線を確認させるために、コミュニティの住民と共に土地の計測を行った。計測をする事で、牧畜などが認められる土地の範囲が明確になった。
2. 湿地の利用者と近隣住民に、正しい湿地の利用方法を周知した。例えば、魚の養殖、養蜂などの持続可能な活動は認められるが、土地の埋め立て、ごみ投棄、植樹は湿地で禁じられている活動であるという内容である。
3. モニタリング活動の際に、バゲザシード中等学校の様な高地で植樹活動が実施されている様子も視察した。



郡の自然環境責任者が計測器を持って、キテナ・ナバカジ湿地帯の被害状況を示している。



写真中央のウガンダのホオジロカンムリヅルの生息地である湿地帯では、トウモロコシ栽培による被害が出ていた。



ルサリラ・キバリンガ湿地帯では、視察の際に、湿地に被害を及ぼしているごみの投棄や穴掘りをやめることが宣言された。



モニタリングのチームとコミュニティの参加者が、キャベツ栽培と湿地の境界線を測定。(ルサリラ・キバリンガ湿地帯)



キバリンガのバゲザシード中等学校で、活動の記念として植えられた木に水をあげる SORAK の代表。

活動の成果：

1. 警察は、郡の責任者と共に環境保全に関する規制を印刷しコミュニティセンターに掲示する事を約束した。
2. 警察は、環境保全に関する違法行為を取り締まり、違反者には罰則を科すと約束した。
3. 本活動の考え方を受け入れてくれた訪問地では、モニタリング活動を支持する証として木を植え、環境保全活動を継続してくれた。例えば、バゲザシード中等学校では、5本の木を植林した。

課題：

1. 耕作可能な土地が不足しているため、住民は生活のために違法な湿地侵入をせざるをえない状況にある。
2. 湿地に関する法律と規制が十分に施行されていない。原因としては、準郡と郡の地域政府の人員不足のため取り締まることが困難なためである。
3. 地域の指導者も、湿地侵入の取り締まりに協力的ではない。
4. 湿地侵入が及ぼす環境破壊について、ほとんどの地域住民が理解していない。

提案：

1. 湿地利用に関する法律の施行をより厳格化する。
2. 湿地の持続可能な利用方法について地域のコミュニティで研修を行う。
3. 湿地で起きている環境被害を補うため、湿地以外の適地に植樹（ユーカリの木や、マンゴーやジャックフルーツの木など、成長の早い樹木）を行う。
4. 監視を強化し、より多くのコミュニティベースの会合を開催し、湿地侵入と不適切な利用の及ぼす被害やリスクについて住民に周知し、意識喚起をする。

結論：

本プロジェクトの湿地帯の監視は、現場で必要とされている活動であることが分かった。SORAK と準郡・郡の関係者は、環境破壊を引き起こす環境の実態を確認することができた。また、次世代へ優れた自然環境を残していくために、地域のリーダーに自分達の果たすべき責任と役割を意識させる機会となった。